

平成27年2月25日(水)

老球の細道120号

## こぶしの比喻

会津バスケットボール協会理事長 室井 富仁

先日(1月25日)NCAA男子ディビジョンIでコーチKことマイク・シャシェフスキーが歴代1位で初めて通算1,000勝を達成した。現在名門デューク大学のヘッドコーチを努め、バスケットボールのコーチなら誰もが憧れるコーチの神様である。

1975年に陸軍士官学校でヘッドコーチに就任して以来、40年という月日が経っている。デューク大学ではNCAA優勝4回を達成している。また、大学のコーチながらNBA選手で固めたアメリカ代表を率いて五輪優勝2回、世界選手権とワールドカップをそれぞれ優勝に導いている。

そのコーチKの凄さは、現在の成功に甘んじることなく、常に新たな挑戦をすることで自らを改訂し、更新し続けていることである。彼の絶え間ない学びの姿勢は、次のような言葉に現れている。「わたしにとって、生きるとは学ぶことにほかなりません。学ぶことをやめてしまったら、もはや生きていないも同然なのですから」。

私がデューク大学の存在に気づいたのは1986年(昭和61年)のNCAAトーナメントであった。この頃はNHKの衛星放送もスカパー放送もなかったので、東京のあるビデオメーカーからアメリカで放送されたビデオテープを買い取り、福島県では誰も見えない試合を独りほくそ笑んで視聴していた。その時に彗星のごとくファイナル4に登場してきたのがコーチK率いるデューク大学であった。アメリカなので自由気ままにバスケットボールをプレーするのかと思っていたら、実に統率のとれた行動とプレーをしていたのがとても衝撃的だった。(彼自身が陸軍士官学校出身だったことは後でわかった)

アメリカにコーチ留学する日本のコーチ達は誰もがコーチKに見参する。そして、コーチKのバスケットボールに対する見識の深さと人間性に誰もが魅了されるという。私も一度会って見たいと思うのだが、まだ実現はしない。しかし、数年前に知人のミニバスコーチのNさんからアメリカ旅行のお土産にいただいたコーチKの著書『Leading with the Heart: Coach K Successful Strategies for Basketball, Business, and Life』から、コーチKの人となりの片鱗を知ることができた。さらにまた知人の高校監督のW先生から日本語訳のコーチKの著書『コーチKのバスケットボール勝負哲学』(イースト・プレス発行)を紹介されて読んでみて、改めて彼の偉大さを思い知らされた。

その本に載っていた「こぶしの比喻」なる話に感銘を受けたので紹介したい。「こぶしの比喻」とは5本の指が協力しあって、こぶしを作り上げる。このこぶしは、5本の指がばらばらであるときとは違って、強力であり、ひとつの力となってまとまっている。それぞれの指は、ある言葉を表している。「コミュニケーション」「信頼」「集団責任」「思いやり」「誇り」。このこぶしを作り上げる一本一本の指は、チームの善さを引き出す土台を象徴している。

さらにコーチKは、“こぶし”について教えるとき、目指しているのは5人がひとつの目的に向かって一丸となってプレーすることであると説く。デュークの練習前、試合前の儀式は、全員がハドルを組みながらこぶしを握り合い「Together!」だった。